

# いちひろ

TENRIKYO  
ICHIHIRO BRANCH CHURCH

〒635-0812 奈良県北葛城郡広陵町広瀬 306

立教 179 年  
平成 28 年 5 月 17 日  
第 290 号

天理教一広分教会  
☎ 0745 (57) 0076

おことば抄

一手一つの理を治めば、  
皆受け取る。  
一手一つの速やかなの理あれば、  
速やか治まる。  
いつ／＼までの理に治まる。

(明治22年5月19日)

解説 お道におけるものごとのすすめ方の基本を教えられている。

何よりも大事なことは、皆の心が一つになることである。人によれば言うことがまちまちである。こうしたことは、しばしば見聞きするところであろう。これは、皆の思いが一つになっていないから。あるいは、お互いの思いがよく談じ合われていないからであろう。

その意味で、ものごとを進めるには、お互いの思いをよく練り合うことである。ところが、こうした当たり前のことが、なかなか実行されない。もちろん、それぞれの立場もあろう。会長だ、役員だ。信者だ。それぞれのの見方が異なる。いちいち役員や信者の言うことなにかに耳を傾けていられない、という会長もいる。

考えてみれば、違うからいいんだといえる。同じだったら物事は発展展開することはない。会長の周りにはイエスマンしかないようでは、どうにもならない。

一手一つというのは、それぞれがそれぞれの特徴をもっている、それが生かされていく道というか、形である。人間元初りのときの、道具衆のはたらきを考えてみると、その役割は、皆別々である。しかしその別々のはたらきが親神の思いの一つになるとき、それぞれが生かされて、それまでにない創造的展開が繰り広げられることになる。そして、今までにない物事がそこに誕生する。

何本かの手が、その動きは違っても一つになることが大切だ。その心を受け取って、どんな守護もくださるのである。だから「いつ／＼までの理」となって、物事が治まっていくのである。

(み)

# 布教部員のご命を いただいで

安井 京子

教祖130年祭も終わり、歩みを止めることのないように、とのお打ちだしをいただいでから、数ヶ月がたちます。大教会より布教部員としてつとめるようにとご命を頂き、しつかりと布教するようにと言われているような気がしております。

年祭に向かつて、自分なりに出来ることを心定めし、勤めてまいりました。結果、ほんとうにもつたいないご守護を見せて頂き、あれもこれもと思っておりましたこと、全部ありがたい結果となりました。

また思ってもいないことまでも、うれしいことがみえてきました。タイよりの教祖130年祭おぢばがえり団参をしてくれました。また、一広タイ集談所の開設という大きなよろこびをお見せ頂き、さらに教会に隣接する土地建物のご守護に会長と信者さん方と喜びあつておりました。

不思議なことの連続で、親神さまおやさまに何とお礼申しあげればいいのか、わからな

いほどです。

そんな中、においがけ・おたすけにと心算んで励んでおりました。ただご恩に報いる、ご恩返しをするというところまでは、とうていいきませず、申し訳ない気持ちが大きくひろがってまいりました。ご恩報じのお話を聞くとたびに、こんなことではダメだ、と心が勇むどころか、かえって心が沈むような始末。これではどうにもなりません。

会長からは、人間でも親が我が子に「ご恩報じ」しなさいとは言わない。それは先人の人たちが、教えを聞いて、親神様の守護の話を聞いて、それに対して、ご恩報じを、と思われた信仰なんだ、と教えられました。少し心が軽くなったように思いました。

実際いろいろな場面で、神さまの話をさせて頂いたり、相談などもさせて頂いておりましたが、最近とくに感じますことは、教えが心から心へ、胸から胸へ伝わっていくということが、だんだん難しくなってきたのではないか。そんなことを感じるのです。簡単にいえば、お道の話に限らず、人として話が通じにくくなつてきているように思うのです。

ある教会の奥さんのお話のなかで、昔と

は違うとは思っていたけど、ここまで通じないとは。どうしたらいいのかなあ、と話されておられました。でも決してあきらめないで、壁に爪をたてて登っているようだけど、頑張ると話されておられました。

私だけでなく、同じように感じている方もおられるのだと思いました。会長は、今の私たちは、私たちの年代の者と違って、随分もの見方考え方が違う、と言っています。たとえば、私たちが「親」と考えている内容と、若い人たちが考えている「親」の意味内容は違っている、ということを知っておかねばならない。だから親への思い方は違うのだと言っています。これは個別的な問題でなく、一般的なことがらだと。

いずれにしても、オーバーな言い方ですが、ほんとうに教えの言葉が伝わりにくいと、実感しております。

でもよくよく考えてみますと、人と人の心が通じ合うまでには長い間のかかわりがあるのだと。そして私自身がその人にどれだけ真実・誠を尽くしてきたか、ということが大切なことだと思っております。

でも、このことは、今にはじまったことではないのです。おやさまのひながたそのもの

なのです。おやさまが初めて神さまの話を私たちに聞かせてくださり、納得するまで、どれだけの誠真実・親心をかけてくださったかということをお思い起こすことができます。改めて気付いたことです。

現代は時の流れが速いため、何事においても、急いで早く結果が求められます。早くはやく、急いでいそいで、と言われてる毎日のようですが、神さまの教えは、お話はそんなものに流されることなく、じつくりと私たちがおやさまが導いてくださったことを心において、しっかりと誠を尽くすこと、親心をかけることができるように、努めることが大切ではないのかと思いました。

そう考えていましたら、一広分教会の motto である「地道にコツコツと」ということが思い起こされ、それを再確認し、あせらず、自分をしっかりと見つめ、日々のつとめの大切さ思い出しました。

おやさまは、こんな私にもお心をかけてくださり、いっぱい／＼ごほうびを下さって、喜ばせて下さいます。

ありがとうございます。また、これからもよろしくお願いたしますと、申し上げる日々でございます。

## 全教一斉ひのきしんデーに

### 一広から二十三名参加

去る4月29日、雨の予報を吹っ飛ばし、時折晴天のもと、勇んで参加させていただいた。このひのきしんデーに、一広のみなさんは、おおげさにいえば、世界各地で参加されました。

まず、タイ会場では、ピーちゃん。

シンガポール会場では、粟飯原崇、粟飯原暖の2名。

広島会場では、チュウンチャイ・菜々美さん夫妻の2名。

多治見会場では、安井清二・和栄夫妻の2名。

天理会場では、安井妙子・安井真人・安井健・安井寛夢の4名。

おぢば会場では、出口道信・安井幹直、安井哲郎の3名。

広陵会場では、会長夫婦、山本育男、西井英樹、安井幸枝、安井晴親、ゆの、安井美有、中川光子の9名。

あわせて、一広から23名の方が参加されました。



(広陵会場で)

## ミーナさん修養科で 頑張っています

修養科タイ語クラスに、ミーナさんが入学され、馴れない詰所生活に、頑張っておられます。牛肉はダメなので、カレーライスなどはビーフアウト、ポークインなどと、食堂の方と言いながら食しているとか。

□五十一人のおつとめ奉仕者をお与えいただこう ◆勇もうさづけの取り次ぎに。

四月月次祭役割表 (平成28年4月17日) 日曜日 午前10時執行

祭主		會長		扨者		贊者		指図方	
会 長		安井清二		安井哲郎		安井慎二		安井清二	
座りづとめ		前 半		後 半					
り		安井清二		安井哲郎		安井慎二		安井清二	
を		安井清二		安井哲郎		安井慎二		安井清二	
ど		安井清二		安井哲郎		安井慎二		安井清二	
り		安井清二		安井哲郎		安井慎二		安井清二	
笛		安井和栄		西井千賀子		安井清二		安井清二	
ちゃんぽん		佐々木登喜子		武田啓純		榊井怜子		榊井怜子	
拍子木		池尻喬信		山崎修		ピーラヤ		ピーラヤ	
太鼓		山本理恵子		佐々木登喜子		松本ハルノ		松本ハルノ	
すりがね		松本ハルノ		中川光子		安井妙子		安井妙子	
小鼓		安井哲郎		池尻喬信		安井真智子		安井真智子	
琴		安井幸枝		安井美有		安井真智子		安井真智子	
三味線		中川ヤヨイ		安井妙子		大橋芙美代		大橋芙美代	
胡弓		武田直子		升崎菜々美		ウイナ		ウイナ	
地方		安井慎二		西井英樹		山崎修		山崎修	
安井慎二		西井英樹		山崎修		山崎修		山崎修	

□挨拶 会長。講話 会長。献饌長 安井清二 伝供 出口道信、山崎修、安井哲郎、西井英樹 ▽本年の実績↓初席者6名。おさづけの理拝戴者0名。修養科生1名。検定講習0名。三日講習会0名。

# 編集後記

▽今月号は、予定通り月次祭当日に発行できそうです。先月号は完全に失念してしまいました。月次祭当日になって、「いちひろ」がないことに気がつきました。そこで、遅ればししながら、何とか4月中に、と思つて、289号は発行させて頂きました。まことに申し訳ありません。

▽月次祭発行ということは、会長就任以来、違つたことはないのです、何ともいえない無念さのような気持ちがあります。しかし、済んでしまえば、ともかく4月発行できたのだから、という安堵感もあります。いずれにせよ、気を引き締めて、進みたいと思います。

▽5月28日より、シンガポール、バンコクへ行つてきます。体調に若干不安を抱えながらですが。用事は粟飯原宅に神実さまをお鎮まりいただくためと、バンコクはカイちゃん宅を「一広タイ集談所」として開所するためです。この点については、4月14日、大教会長さんの了解をいただいております。タイでのカイちゃん宅のお勤めに、いろいろな方のお詣りにきてくださるようになったからです。一歩前進です。お社その他、少しサイズの大きいものになる予定です。飛行機の手ケット(格安券)はヌンさんが手配してくれました。お世話をかけました。ありがとうございました。(や)